

龍神の寺

大寺を歩く

匠探訪

— 68 —

今年の干支は「辰」。十二支に動物があてはめられた際に、伝説上の動物である龍を辰にあてたとされます。

市内には龍の付く寺が、龍尾寺(豊和地区大寺)、龍頭寺(豊栄地区木積)、龍性院(匠瑛地区中台)、龍蔵院(野田地区野手)、龍性院(共興地区吉崎)の5か寺存在します。

龍尾寺の入り口に「関東三龍之寺」の真新しい看板があります。三龍の寺とは、むかし日照りになった時に印旛沼の龍が天に昇って雨を降らせたが、その龍の体は3つに分かれて落

ちたところに寺を建てたという伝説にちなんでいるようです。その3か寺が龍角寺(印旛郡栄町)、龍腹寺(印西市)とここ龍尾寺とされています。

龍角寺は県内最古の瓦葺きの寺とされ、709年創建と伝わる龍尾寺もかつての寺跡から750年以前・奈良時代前期の瓦が見つかっていて、伝説と結びつく歴史的なつながりも感じられます。香取海匝地域での古代寺院跡は、この龍尾寺の前身寺院とみられる「八日市場大寺廃寺」と「木内廃寺」(香取市小見川・木内)の2か所

しか見つかっていません。

龍尾寺の弘法井戸

樺湖に面した台地上に集落や寺ができ、1290年ごろにはこの地域一帯が「匠瑛北条大寺郷」とよばれ、千葉氏の流れをくむ武士団が支配していました。14

21年の記録から、大寺字飯盛塚の笠懸屋敷とよばれる場所が聖禪寺(現在は廃寺)に寄付され、そこには鎌倉八幡宮(鎌倉市)に関係する寺院の領地があったことが知られています。

龍尾寺境内には薬師堂がまつられ、堂前の石灯籠は1809年(文化6年)6月に日照りが続き、この薬師様に雨乞いをしたところ雨が降り続いたので村中で寄付したと刻まれています。

薬師堂の裏には弘法大師空海(真言宗の開祖)がこの地を訪れ、自ら掘り当てたと伝わる井戸があります。大師ゆかりの弘法井戸・弘法水は、全国各地に約1500か所あるとされています。

かつて下総の龍神伝説を調べていたころ、印旛沼と大寺では少し離れすぎではないか。樺湖を囲むように大寺・龍尾寺周辺にも龍の付く寺があるので、それらをひとつのエリアと考えてもよいのではないか、などと考えたことがありました。

近年、パワースポットブームといわれています。龍神の寺めぐりも良いかもしれません。

問 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080

